

平成10年度

アイヌ語ラジオ講座 テキスト

7月▶9月
Vol.2
1998

講師のプロフィール



なかもとむつこ
中本ムツ子

北海道千歳市蘭越生まれ。
アイヌ語を母語とする父母のもとで自然にアイヌ語(千歳方言)およびアイヌ文化を身につける。
1975年、千歳市内に居住する無形文化伝承者の活動を世話しながら、アイヌ文化の伝承活動を始める。
現在、千歳アイヌ語教室の講師・運営委員長のほか、千歳アイヌ文化伝承保存会会長として活躍している。

支援研究者紹介

なか がわ ひろし
中川裕

神奈川県横浜市生まれ。千葉大学文学部助教授。
講師の中本ムツ子氏と親交が深く、本講座の支援研究者として、テキスト本編の原稿を執筆担当。
著書として、『アイヌ語千歳方言辞典』草風館(1995)や中本ムツ子氏と共著した『エクスプレス アイヌ語』白水社(1997)などがある。

【千歳アイヌ語教室の活動について】

千歳アイヌ語教室は、毎週金曜日、19時から21時まで、千歳市蘭越にある蘭越生活館で開設しています。

なお、千歳アイヌ語教室に関するお問合せ先は、次のとおりです。

☎0123 23 4964(蘭越生活館)

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	回	日	テ - マ
7月	1	5日	発音(1)
	2	12日	発音(2)
	3	19日	あいさつ
	4	26日	文化講座:アイヌ文化(1)
8月	5	2日	あの人は誰?
	6	9日	~してください
	7	16日	一緒に行こうよ
	8	23日	ありがとう
	9	30日	文化講座:アイヌ文化(2)
9月	10	6日	私のネコ
	11	13日	腰が痛い
	12	20日	あなたにあげる
	13	27日	文化講座:カムイユカラ

アイヌ語には現在のところ標準語というものはなく、それぞれの地域で、それぞれの方言が学ばれているのが実状です。

そのため、このテキストでは、担当講師の方言(千歳方言)をベースにしています。



今日のポイント

1. アイヌ語の母音を学ぶ。
2. 日本語にない音を学ぶ。
3. 小さなカナの音を学ぶ。

母音は日本語と同じくアイウエオの5つです。発音は大体日本語と同じですが、ウだけは少し唇を丸めて突き出すようにして発音します。

ウの発音：ブ「倉」、ク「弓」

日本語に合わせて言えば、アイヌ語にはア行、カ行、サ行、タ行、ナ行、ハ行、バ行、マ行、ヤ行、ラ行、ワ行、そして、チャ、チュ、チェ、チョのチャ行があります。ガ行、ザ行、ダ行、バ行はありません。シャ、シュ、シヨ、とサ、ス、ソの区別もありません。キャ、ニャ、ヒャ、ミャ、リャなどの発音もありません。

日本語にない発音をとくに練習してみましょう。

トゥの発音：トゥキ「盃」、エトゥ「鼻」

イエの発音：イエ「言う」、スイエ「振る」

ウエの発音：ウエン「悪い」、ハウエ「声」

小さなカナで書かれる音は、みんな日本語にない音ですので、よく注意しましょう。

小さなフ：唇を閉じます。カフ「皮」、トフ「竹」

日本語で「カップ」と言うつもりでカッで止めると、カフになります。

小さなッ：舌の先を歯の裏につけます。ハッ「ブドウ」、タッ「樺」

日本語で「発展」と言うつもりで、ハッで止めると、ハッになります。

小さなク：舌の奥を持ち上げます。シク「目」、エク「来る」

日本語で「しっかり」と言うつもりで、シッで止めると、シクになります。

小さなシ：はっきりとシと言わないようにします。アシ「立つ」、ピシ「浜」

コピシ「尋ねる」と比べてみましょう。

小さなム：唇を閉じて、開けないようにします。カム「肉」、セム「物置き」

カム「覆う」と比べてみましょう。

小さなラリルレロ：ラリルレロとはっきり発音せず、あいまいに発音するようにします。

チボロ「筋子」、ケレ「靴」、キサラ「耳」

ケレ「靴」とケレ「触る」を比べてみましょう。

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント

1. ふたつ以上の言葉が続いた時の発音の変化を学ぶ。
2. アクセントの基礎を学ぶ。

1) 発音の変化

ポンは「小さい」、セタは「犬」です。しかし、「小さい犬」と言う時、最近ではポンセタと発音する人も多くなっていますが、本来はポイセタと発音します。このように、アイヌ語では、言葉をひとつひとつ発音した時と続けて発音した時とで、音が変わることがあります。

ポイセタのように、ンの後ろにサ行、ヤ行で始まる言葉がくると、ンはイに変わります。

例：ウェン「悪い」サンベ「心臓」 ウエイサンベ「悪い心」
 イワン「6つの」シントコ「シントコ」 イワイシントコ「6つのシントコ」
 ポン「小さい」ユク「シカ」 ポイユク「小ジカ」

小さいラリルレロの後ろに、タ行、チャ行で始まる言葉がくると、ラリルレロは小さいッに変わります。

例：クコロ「私の」チセ「家」 クコッチセ「私の家」

小さいラリルレロの後ろに、ナ行、ラ行で始まる言葉がくると、ラリルレロはンに変わります。

例：コロ「持つ」ルスイ「～したい」 コン ルスイ「欲しい」

2) アクセント

アイヌ語は言葉によって低く始まるものと、高く始まるものがあります。場合によっては、それで意味が変わることもありますので、気をつけて覚える必要があります。

ニサッ「突然」ニサッ「すね」、ニナ「たきぎをとる」ニチ「つぶす」、ハイ「ツルウメモドキ」ハイ「痛いよ!」などの言葉は、アクセントの違いで意味が変わります。

カムイ「神」、コタン「村」、モシリ「世界」、エカシ「おじいさん」などの言葉を、カムイ、コタン、モシリ、エカシのように最初を高く発音する人が時々いますが、これらはカムイ、コタン、モシリ、エカシのように、最初を低く、次を高く発音するようにならなければなりません。

アイヌ「人間」、ニンカリ「イヤリング」、ウチ「おばあさん」、ユカラ「英雄叙事詩」などの言葉は、最初を高く発音します。

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント

1. 出会いと別れの際のあいさつを学ぶ。
2. ク[私が], エ[あなたが]を学ぶ。
3. フナクン[どこへ]という質問の仕方を学ぶ。

A : エイワンケ ヤ?
e=iwanke ya?

B : クイワンケ ワ。
ku=iwanke wa.

A : フナクン エアラパ?
hunak un e=arpa?

B : サッポロ ウン カラパ ワ。
SAPPORO un k=arpa wa.

A : アプンノ パイエ ヤン。
apunno paye yan.

B : アプンノ オカ ヤン。
apunno oka yan.

A : 元気ですか?

B : 元気ですよ。

A : どこに行くの?

B : 札幌に行くのよ。

A : さようなら。

B : さようなら



; 単語

アプンノ [無事に]
ウン [~へ]
カラパ [ク + アラパ]
フナクン [どこへ]
ワ [~わ、~よ]

アラパ [行く]
エ [あなたが]
ク [私が]
ヤ [~か?]

イワンケ [元気だ]
オカ [いる、暮らす]
パイエ [行く]
ヤン [~してください]

【解説】

1) エイワンケ ヤ? - クイワンケ ワについて

日本語では「元気ですか?」「元気ですよ」のように、「誰が」ということを言わない方が普通ですが、アイヌ語では、いつでも、それをはっきりさせておかなければなりません。「私が」という時はクを、「あなたが」という時にはエを必ずつけておきます。

2) フナクンは「どこへ」、エアラパのアラパは「行く」という意味で、エは、今説明した「あなたが」という言葉です。

カラパはクアラパ、つまり、ク「私が」、アラパ「行く」の縮まったものです。千歳方言や沙流方言では、このようにア、ウ、エ、オで始まる言葉の前に、「私が」の意味のクがついた時には、縮まったカ、ク、ケ、コとなります。

3) サッポロ ウン カラパ ワの最後のワは、日本語の「行くわ」「行くよ」の「わ」や「よ」と同じようなもので、言葉をやわらげる役目をします。サッポロ ウン カラパだけでもよいのですが、ワを入れると、もっとやわらかい感じになります。

4) 「さようなら」という時、その場から去って行く相手に言う時は、アプンノ パイエ ヤンといいます。これは「無事にお行きなさい」という意味です。訪ねていった家の主人などのように、その場に残る人に言う場合には、アプンノ オカ ヤンと言います。これは「無事に暮らさなさい」という意味です。つまり、その時の状況によって、「さようなら」の言い方が違いますので、注意してください。

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント

1. フンナ アン[誰ですか?]という質問の仕方を学ぶ。
2. [~です]という言い方を学ぶ。
3. [~ではない]という言い方を学ぶ。
4. [~ですか?]という言い方を学ぶ。
5. [私の~]という言い方を学ぶ。

A : トアン クル フンナ アン?
toan kur hunna an?

B : クコロ アチャポ ネ ルウェ ネ。
ku=kor acapo ne ruwe ne.

A : トアン メノコ エコロ ウナラベ ネ ルウェ?
toan menoko e=kor unarpe ne ruwe?

B : クコロ ウナラベ ソモ ネ。
ku=kor unarpe somo ne.

クコツ トット ネ ルウェ ネ。
ku=kor totto ne ruwe ne.

A : あの人是谁？

B : 僕のおじさんだよ。

A : あの女の人は君のおばさんかい？

B : 僕のおばさんじゃないよ。

僕のおかあさんだよ。

【解説】

1) 「誰ですか？」とたずねるときはフンナ アン？と言います。このフンナのような質問のための言葉は方言によって、かなり差があります。フンナ アンは、おもに千歳地方と沙流地方で使われる言い方です。

2) 「～です」という時には、～ネと言います。だから、「僕のおじさんだよ。」は、クコロ アチャポ ネだけで何も問題ありません。ただ、そこに、ルウェ ネとつけくわえて、クコロ アチャポ ネ ルウェ ネとすると、もっときちんとした言い方になります。「～ではない」という時には、～ソモ ネと言います。

「私は～です」という時は、「私が」を表すクを、ネの前につけます。

例：フンナ アン？ 「誰だい？」

むつこ クネ ルウェ ネ。 「ムツ子です。」

この時に、クは「私が」だからというので、日本語と同じように考えて、ク むつこ ネ ルウェネ。 などとしてはいけません。

3) 「あの女の人は君のおばさんかい？」のように、「はい」、「いいえ」で答えられるような質問の場合、「かい？」にあたる言葉として、ルウェ？という言い方があります。トアン メノコ エコロ ウナラベ ネ。という、「あの女の人は君のおばさんだ」となりますが、トアン メノコ エコロ ウナラベ ネ ルウェ？といえは、「あの女の人は君のおばさんかい？」という質問になります。

4) 「私の～」と言う表現は、場合によって変わりますが、アチャポ「おじさん」、ウナラベ「おばさん」、トット「おかあさん」などの場合には、クコロという言葉をつけます。クコロは、ク「私が」コロ「持つ」ということですので、「あなたの」と言う場合には、クをエに変えて、エコロと言います。なお、千歳方言では、「おかあさん」のことをトット、「おとうさん」のことをハボと言いますが、他の地方では「おかあさん」のことをハボと言うところが多く、その代わりに、おとうさんのことをミチと呼

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。



; 単語

アチャポ [おじさん]

エコロ [あなたの]

コロ [～の、持つ]

トット [おかあさん]

メノコ [女性]

アン [ある]

クコロ [私の]

ソモ [ない]

ネ [～である]

ルウェ ネ [～だ]

ウナラベ [おばさん]

クル [人]

トアン [あの]

フンナ [誰]

ルウェ? [～か?]



今日のポイント

1. 頼む時の言い方 ～ヤン、～ワ エンコレ を学ぶ。
2. 「はい」という返事を学ぶ。
3. ～エアイカブ [～できない]という言い方を学ぶ。

A : ワッカ エンコレ ヤン。
wakka en=kore yan.

B : ヤイカタ オマレ ワ ク ヤン。
yaykata omare wa ku yan.

A : エー。こっぷ フナクタ アン?
e. KOPPU hunak ta an?

B : サン カ タ アン ナンコロ。
san ka ta an nankor.

A : クバ カ エアイカブ。フナラ ワ エンコレ。
ku=pa ka eaykap. hunara wa en=kore.

A : 水をください。

B : 自分で入れて飲んでおくれ。

A : はい。コップはどこですか?

B : 棚の上にあるでしょう。

A : 見つかりません。探してください。

【解説】

1) ワッカは「水」。エンコレのエンは「私に」。コレは「与える」。ヤンは、ものを頼む時につける言葉です。直訳すれば、「水を私に与えてください」となります。ヤンをつけないと、「水、おくれ」というような、ちょっとぶっきらぼうな感じになります。

2) オマレ ワ ク ヤンのように、ヤンをつけて、ものを言い付けたり、頼んだりする場合には、それが相手のすることだとしても、つまり、水を入れたり飲んだりするのが「あなた」がやることだとしても、エをつけて、エオマレ ワ エク ヤンとは言いません。「誰が」というのを言わないことによって、命令だということを表しています。

3) 何かを言い付けられたり、頼まれたりして、「はい」と返事をする時には、エーと言います。ちなみに、名前を呼ばれて、「はい」と返事をする時には、ホ!と言います。

4) 「～できない」という時には、エアイカブという言葉をつけます。「見つからない」という場合、クパは「私が見つかる」。それができないというのですから、クパ エアイカブでOKです。しかし、実際には、さらに「も」という意味のカという言葉添えて、クパ カ エアイカブ「私が見つかることもできない」という言い方も、よくされます。

なお、「～できる」という場合には、エアイカブの代わりにエアシカイという言葉を使います。

5) エンコレはそれだけで「～をください」という意味になりますが、「～して」という意味のワを添えて、～ワ エンコレというと、フナラ ワ エンコレ「さがしてください」のように、日本語の「～してください」と同じ使い方ができます。

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。

.....

.....

.....

.....

.....



; 単語

エー [はい]

エンコレ [ください]

カ [も]

サン [棚]

パ [見つける]

ヤイカタ [自分で]

エアイカブ [～できない]

オマレ [入れる]

ク [飲む]

タ [に]

フナクタ [どこに]

ワ [～して]

エン [私に]

カ [上]

コレ [与える]

ナンコロ [だろう]

フナラ [探す]

ワッカ [水]





今日のポイント

1. ハウェ ネ「～だそうだ」の使い方を学ぶ。
2. 「私たち」「あなたたち」の言い方を学ぶ。
3. 誘い掛けの言い方 ～アン ロ を学ぶ。

A : ニサッタ アウタリ オピッタ ウエカラバ ハウェ?
nisatta a=utari opitta uekarpa hawe?

B : エカシ コツ チセ オッタ ウエカラバ ハウェ ネ。
ekasi kor cise or ta uekarpa hawe ne.

A : エチパイェ ルウェ?
eci=paye ruwe?

B : パイエアシ ルスイ ワ。
paye=as rusuy wa.

A : ウトゥラノ パイエアン ロ。
uturano paye=an ro.

A : 明日、親戚がみんな集まるんだって?

B : おじいさんの家に集まるって話だよ。

A : あなたたち行くの?

B : 行きたいな。

A : 一緒にいこうよ。



; 単語

アウタリ [自分の親戚、仲間]	アシ [私たちが話し相手が入らない]	アン [私たちが話し相手が入る]
ウエカラバ [集まる]	ウトゥラノ [一緒に]	エカシ [おじいさん]
エチ [あなたたちが]	オッタ [～のところに]	オピッタ [みんな]
コツ<コロ	チセ [家]	ニサッタ [明日]
ハウェ? [～だって?]	ハウェ ネ [～だそうだ]	ルスイ [～したい]
ロ [～しましょう]		

【解説】

1) ハウェというのは、人から聞いた話であることを表す言葉で、これまでに出てきたルウェと同じように使います。つまり、～ハウェ?と言えば質問になり、「～だって?」という意味になりますが、～ハウェ ネと言えば、「～だそうだ」と、聞いた話を伝える意味になります。

2) 「あなたたちが」という場合は、これまで出てきたク「私が」、エ「あなたが」の代わりに、エチという言葉の前につけます。ただし、アヲパ「行く」にそのままつけて、エチアヲパとすることはできません。つけられる方の言葉(動詞)が、ひとりの場合とふたり以上の場合で形が変わることがあり、ふたり以上で「行く」場合には、パイェと形が変わるからです。したがって「あなたが行く」はエアヲパですが、「あなたたちが行く」はエチパイェと、形がまったく変わってしまいます。

このように形が変わるものには、基本的な言葉が多いので、かならず暗記しておかなければなりません。

	ひとりの場合	ふたり以上の場合
来 る	エク	アラキ
立 つ	アシ	ロシキ
座 る	ア	ロク
い る	アン	オカ
上 がる	リキン	リキバ
降 りる	ラン	ラブ
家に入る	アフン	アフバ
外に出る	ソイネ	ソイエンバ

3) 「私たちが」という場合は複雑で、話し相手が「私たち」の中に入る場合と、入らない場合に分かります。

パイェアシ ルスイ ワ「私たちは行きたい」という時の「私たち」には、話し相手のBさんは入っていません。その時にはパイェ「行く」の後ろにアシという言葉をつけて言います。一方、ウトゥラノ パイエアン ロ「一緒にいこうよ」は、直訳すると「一緒に私たちが行こう」となりますが、この「私たち」には、話し相手のAさんたちが含まれます。こういう場合には、パイェの後ろにアンという言葉をつけて言います。

実は、この「話し相手が入る場合」と「入らない場合」は、それぞれさらに二つの言い方に分かれるのですが、いっぺんには覚え切れませんので、今日のところはとりあえず、このアシとアンを覚えましょう。

4) 他人を誘う時には、ウトゥラノ パイエアン ロのように、「(話し相手が入った)私たち」の表現の後ろに、ロという言葉をつけます。～アン ロという形で覚えてしまうと簡単です。

例：シニアン ロ「休みましょう」<シニ「休む」
シノタン ロ「遊びましょう」<シノッ「遊ぶ」



今日のポイント

1. 「ありがとう」の言い方を学ぶ。
2. 「わたしたちが」の言い方を学ぶ。

A : フチ、エイワンケ ノ エアナ ルウェ?
huci, e=iwanke no e ana ruwe?

A : おばあちゃん、元気にしてた?

B : クイワンケノ カナ ワ。ヒオーイオイ。
ku=iwanke no kana wa. hiyo'oy.

B : 元気にしてたよ。ありがとう。

A : ヌマン ブクサ カ オハウキナ カ チカラ
numan pukusa ka ohawkina ka ci=kar
クス クコロ ワ ケク ルウェ ネ ナ。
kusu ku=kor wa kek ruwe ne na.

A : 昨日、私たちはギョウジャンニク
やニンソウをとったから、持って
きたよ。

B : イヤイライケレ。
iyairaykere.

B : ありがとう。

A : オハウ アカラ ワ アエ ロ。
ohaw a=kar wa ae ro.

A : お汁を作って食べましょう。

【解説】

1)すでに、エイワンケ ヤというあいさつの言葉を勉強しましたが、エイワンケ ノ エアナ ルウェ? というのも、あいさつに使えます。直訳すると、「あなたは元気でいましたか?」ということで、しばらくぶりに会った時に使う言い方です。

2)「ありがとう」という時には色々な言い方があります。イヤイライケレというのは、男性でも女性でも使えます。その時、男の人であれば、両手のひらを胸の前で上に向けて、2、3度ゆるやかに上下させます。これをオンカミと言って、男の人のあいさつです。

ヒオーイオイというのは、おもに女性が使うあいさつで、イヤイライケレよりも、もっと軽い感じで使えます。

3)「(話し相手の入らない)私たちが」という場合、アシを後ろにつける言い方を先週習いましたが、言葉によってはチを前につけることがあります。ブクサ カ オハウキナ カ チカラ クスのチカラはチ「私たちが」カラ「(山菜を)とった」という意味です。どういう言葉にアシがついて、どういう言葉にはチがつくのかというのは、ひとつひとつ覚えなくてはなりません。(自動詞にはアシが、他動詞にはチがつくのですが、どれが自動詞で、どれが他動詞かは、やっぱり覚えなくてはなりません。)

4)「(話し相手が入った)私たちが」という場合も、アンを後ろにつける場合と、アを前につける場合があります。先週、誘い掛けの言い方は、~アン ロと覚えましたが、エ「食べる」という言葉の場合は、エアン ロではなくて、アエ ロとなります。したがって、オハウ アカラ ワ アエ ロとなります。アンとアの使い分けは、アシとチの使い分けと同じで、アシをつける言葉にはアンをつけ、チをつける言葉にはアをつけて使います。

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。



; 単語

ア [過去を表す]	フチ [おばあちゃん]	ブクサ [ギョウジャンニク]
エ [食べる]	ア [私たちが(話し相手が入る)]	イヤイライケレ [ありがとう]
オハウ [お汁、鍋物]	エアナ < エ + アン + ア	
カン < ク + アン	オハウキナ [ニリンソウ]	エク [来る]
チ [私たちが(話し相手が入らない)]	ケク < ク + エク	カナ < ク + アン + ア
ハウエ ネ [話だ]	ヌマン [昨日]	コロカ [~ だけれど]
	ヒオーイオイ [ありがとう]	ノ [~ で]



今日のポイント

1. 体の部分について、「私の～」という言い方を学ぶ。
2. 感情を表す言い方を学ぶ。
3. 「どうしたの？」という言い方を学ぶ。

A : ハイー、クイッケウェヘ アラカ フミー！
hai, ku=ikkewehe arka humi!

A : ああ、腰が痛いよー！

B : マカナク エイキ ルウェ アン？
makanak e=iki ruwe an?

B : どうしたの？

A : パセ シケ クルラ ワ クイッケウェヘ カ アラカ。
pase sike ku=rura wa ku=ikkewehe ka arka.
クセトゥルフ カ アラカ。
ku=seturuhu ka arka.

A : 重い荷物を運んで、腰が痛い。
背中も痛い。

B : カニ カヌマン ワノ クレクチヒ アラカ。
kani ka numan wano ku=rekucihhi arka.

B : 私も昨日からのどが痛い。

A : エハウエヘ カ ウェン。エオムケカン ナンコロ。
e=hawehe ka wen. e=omkekar nankor.

A : 声もおかしいよ。風邪をひいた
んでしょう。



単語

アラカ [痛い]

イキ [する]

イッケウェヘ [腰]

ウェン [悪い]

オムケカン < オムケカラ

オムケカラ [風邪をひく]

シケ [荷物]

セトゥルフ [背中]

ハイー [痛いよー！]

ハウエヘ [声]

パセ [重い]

フミー！ [~ だなあ！]

マカナク [どのように]

ルウェ アン？ [~ なのか？]

ルラ [運ぶ]

レクチヒ [のど]

ワノ [~ から]

【解説】

1) 先週言いましたように、体の部分について、「私の～」という時には、クコロ～という言い方は使えません。たとえば、「腰」はイッケウですが、「私の腰」をクコロ イッケウと言うことはできません。イッケウをイッケウェヘという形に変えて、「私の」という意味のク(「私が」という意味で今まで出てきましたが)をつけて、クイッケウェヘとします。

セトゥル「背中」、レクツ「のど」なども同じで、それぞれセトゥルフ、レクチヒなどという形に変えて、クをつけて表します。

どの言葉がどのような形に変わるかは、それぞれ違いますので、ひとつひとつ暗記しなければなりません。

	もとの形	「私の～」の形		もとの形	「私の～」の形
目	シク	シキヒ	耳	キサヲ	キサヲハ
鼻	エトゥ	エトゥフ	口	パヲ	パヲホ
顔	ナン	ナヌフ	頭	サバ	サバハ
胴体	ネトバ	ネトバケヘ	手	テク	テケヘ
腕	アムニン	アムニニヒ	胸	ペンラム	ペンラムフ
足	ケマ	ケマハ	尻	オソロ	オソロホ

2) ハイーというのは、「痛いよー！」という感情を表す言い方で、ハイー、クシキヒ！「目が痛いよー！」、ハイー、クテケヘ！「手が痛いよー！」のように使います。アラカは「痛い」「痛む」という言葉ですが、フミーという言葉の後ろにつけて、アラカ フミー！とすると、「ああ、痛いなあ」という、やはり感情を込めた言い方になります。このように、痛みや、味、気分などの感覚を、感情を込めて表す時には、フミーという言葉の後ろにつけて表します。

例：ケラアン フミー！ 「ああ、おいしいなあ！」

クボツケ フミー！ 「ああ、暖かいなあ！」

3) 「どうしたの？」と相手の様子を聞く時には、マカナク エイキ ルウェ アン？という表現を使います。直訳すると、「どのようにおまえはすることであるか？」という意味になります。前に、ルウェ？という表現を使った質問の仕方を学びましたが、ルウェ？は、「はい」「いいえ」で答えられるような質問をするときの言い方で、マカナク「どのように」、ヘマンタ「何」、フンナ「誰」などの言葉を使って質問する場合には、ルウェ アン？という言い方を使います。



アイヌ コタン
aynu kotan

チヌカン ルスイ
ci=nukar rusuy

タンペ クス
tanpe kusu

アコロ シンタ
a=kor sinta

シンタ アトゥ
sinta atu

チャイコユブ
ci=yaykoyupu

コタン パ オルン
kotan pa or un

コタン ケソルン
kotan kes or un

パイエアナワ
paye=an awa

コタン ノスキ タ
kotan noski ta

コタン コロ ニシパ
kotan kor nispa

トゥ マツ コロ キ ワ
tu mat kor ki wa

シネ メノコ
sine menoko

イテセ コラン
itese kor an

シネ メノコ
sine menoko

イユタ コラン
iyuta kor an

人間の村を

私は見たくて

そのために

私のシンタ

シンタの網を

引き絞って

村の上手に

村の下手に

私は行きました。すると

村の真ん中に

村長が

二人の妻を持っていて

一人の女は

ごさを織りかけていて

一人の女は

ひえをついています。

コタン コロ ニシパ
kotan kor nispa

イルイケ コラン
iruyke kor an

ライキク オシマ
raykik osma

メノコ ウタラ
menoko utar

カムイ パイエオカ
kamuy payeoka

オリパッキ ヤン
oripak ki yan

イタカワ
itak awa

ネペネポ
nepenepo

イタク ヌ キ ワ
itak nu ki wa

シリキ ヤ カ
sirki ya ka

アエラムシカリ
a=eramuskari

イタッコツチャ ワ
itak kotca wa

カラ ペ マコ
kar pe mako

オリパッキ ワ
oripak ki wa

オカ ルウェ ネ
oka ruwe ne

アエラヤブ コロ
a=erayap kor

村長は

刃物を研いでいます。

「ドカンと(雷が)落ちるぞ

妻たちよ

神様がいらっしゃったので

おとなしくしていなさい」

(と村長が)言うと

なんとまあ

言うことをよく聞く

(女たちの)様子であることが

たとうようもありません。

(村長が)言う前に

していた仕事を後にして

かしまって

いるのです。

(私は)感心しながら

パイエアナイネ
paye=an ayne

コタン パ ホマラ
kotan pa homar

コタン ケシ ホマラ
kotan kes homar

インネ コタン
inne kotan

アリ コラチ
ari koraci

アン ルウェ ネ
an ruwe ne

コタン コロ ニシパ
kotan kor nispa

トゥ マツ コロ キ ワ
tu mat kor ki wa

シネ メノコ
sine menoko

ケメイキ コラン
kemeyki kor an

シネ メノコ
sine menoko

イフライェ ナ
ihuraye na

メノコ ウタラ
menoko utar

カムイ パイエオカ
kamuy payeoka

オリパッキ ヤン
oripak ki yan

コタン コロ ニシパ
kotan kor nispa

進んでゆくと

村の上手がかすみ

村の下手がかすみ

家の連なる村が

同じように

あったのです。

村長は

二人の妻を持ち

一人の女は

縫い物をしていて

(もう)一人の女は

洗濯をしています。

「妻たちよ

神様がいらっしゃったぞ

おとなしくなさい」

(と)村長が

イタカワ
itak awa

エアフクスタウン
e apkusutaun

タネ ポ ポカ
tane po poka

ネフキアン クニ プ
nepki=an kuni p

ネ ルウェ ネ
ne ruwe ne

カムイ パイエオカ コロ
kamuy payeoka kor

オリパカン マ
oripak=an wa

ソモ ネフキアン コロ
somo nepki=an kor

マカナキペアン
makanak ipe=an

ハウエオカ キ コロ
hawe-oka ki kor

ネベネポ
nepenepo

エラムシクンネ
eramusikunne

ラムコシネ カムイ
ramu-kosne kamuy

アネ プ ネ クス
a=ne p ne kusu

アコロ シンタ
a=kor sinta

シンタ パケ
sinta pake

言うと

「まあ、たまげた。

ちょうどいま

私は仕事をしようとして

いるんです。

神様が来たからといって

おとなしくして

私が仕事をやめたら

どうやって食べていくんですか」

と言います。

「なんともはや」

怒りやすく

すぐにかつとなる神

が私なので

私のシンタの

シンタの前側

シクタ ケセ
sinta keseアキッキッキク
a=kikkikkikkikコタン ケソルン
kotan kes or unコタン パ オルン
kotan pa or unチホユブレ
ci=huyupureネ ルウェ ネ
ne ruwe neインネ コタン
inne kotanヌイコテレケ
nuykoterkeポ コロ クニ プ
po kor kuni pポテクンパ
po tek anpaウコバラバラッコ
ukoparaparak korアラ ホユツパレ
ar hoyuppareキパ ルウェ ネ
kipa ruwe neコタン ケシ タ
kotan kes taパイェアナワ
paye=an awaレタラ ベ ウシ ウナラベ
retar pe us unarpe

シクタの後ろ側を

叩きに叩き

村の下手に

村の上手に

私は走り回った

のです。

(すると)多くの家の連なる村

に炎が走り

子供を持つ者は

子供の手を引き

互いに泣き叫んで

ただ逃げまどって

いたのでした。

村の下手に

私が進んでいくと

白髪頭のおばあさんが

ソイネ ヒネ
soyne hineシアンテ カムイ
siante kamuyエネ ルウェ ネ
e=ne ruwe neマカナク アン ペ クス
makanak an pe kusuインネ コタン
inne kotanヌイコテレケ
nuykoterkeセコロ ハウェアン コロ
sekor hawean korスルク クスリ
surku kusuriエブルルセ コロ
epururse korアイコチャランケ
a=i=kocarankeオリパクアン キ ワ
oripak=an ki waコタン パ オルン
kotan pa or unコタン ケシ オルン
kotan kes or unパイェアナイネ
paye=an ayneシマコライェ カムイ
simakoraye kamuyアネ ルウェ ネ
a=ne ruwe ne

外に出てきて

「怒りの神

はあなたです。

(とはいえ)なにゆえに

大きな村に

炎が走ることになるのでしょう」

と言いながら

ショウブの根を

プップッと吹きながら

私は談判されました。

(そのため)私は恐れ慎んで

村の上手へ

村の下手へと

向かいました。そして

帰り去った神が

私なのです。